

「堂々川;人も自然も生きている」

2022(令和4)年3月27日 堂々川ホタル同好会情報紙 2021年度第9号(創刊205号)

1. 3月27日の定例会は17人の参加で、砂留整備として周辺の木・小竹伐採、猪が掘りあげた1、5番砂留周辺の球根植替え、鳶が迫砂留川底の木や枝の引き上げ、アマリリスの植栽を実施した。副会長や役員は定例会以外の日も砂留周辺を整備しています。
2. 猪が毎晩のように出没し、上流から近所の民家周辺迄荒らしており、ピンクリボンの効果も無くなったので、ブルーリボンを設置しテスト開始。観光地になったので電気柵は使えず試行錯誤しています。竹酢は今のところ効果があるように思います。
3. 鳶ヶ迫砂留を整備していますが、段差部分には砂が1m以上堆積しており除去に大変手間取っています。安全面から誰でも作業が出来ないのがつらいです。
4. 堂々川にも春が来て、数種の桜は開花、ソメイヨシノももうすぐ開花。この花が咲いたすぐ後の雨の夜にゲンジボタルの幼虫が20時ごろから光りながら上陸します。
5. 監査役渡辺文夫さんが、福山市個人の部の環境賞を受賞され自宅で賞と盾を貰われた
6. 岩手大学および岡大大学院の教授が26日堂々川の砂留を視察されました。
7. 目で見ると事例



3月27日定例会集合場



テレビ取材(4月1日放映)



鳶ヶ迫谷整備作業中



鳶ヶ迫石垣整備 砂1mも堆積



6番砂留下部木の伐採



ゴミ多い 駐禁看板依頼



1番砂留周辺整備



岩手・岡山大学教授視察



小学生と地域花一杯運動実施

10. 次回定例会 集合時間場所 4月 17日(日) 8時30分~11時00分
作業内容 砂留整備・ゴミ拾い・イノシシの荒らした跡の整備・草刈り

定例会はどなたでも参加できます。参加者は保険に入る為名簿にお名前を記入して!

11. 発行責任者 堂々川ホタル同好会 会長 土肥 徳之 携帯 090-2865-3486

登録有形文化財の砂留 6番・鳶ヶ迫砂留の紹介

堂々川の中流域8基の砂留は2006年8月に国の登録有形文化財に登録されました。今回はこの砂留中最大と2番目の規模の6番砂留と鳶ヶ迫砂留について解説します。

6番砂留は大砂留の別名があるように江戸時代1700年代から築造され始めて何回も嵩上げが行われています。この基礎部には御領山に870基も在ったと言われる古墳の石も使われています。江戸時代菅茶山師が書いた「福山志料と筆のすさび」にはこの親水公園が昔溪谷で高さ2丈もある鳥岩がそびえていたと言います。人が登る事ができないので鳥が巣を作ったそうですが砂留が出来て数十年後竹竿を持って探したが見つからなかった。つまり砂の堆積が多かったと言うことです。昭和51年から広島県が親水公園を作りその後福山市に移管して堂々公園になりました。高さ13.3m・長さ55.8m。砂留の西道路寄りには村境石『潼々谷余滴』の石碑立っています。この石碑の西と東に白と赤の彼岸花の球根が地域の人の発案で植えてあります。明治時代、堂々川周辺で土地帰属争いが起こり、20年近く裁判が行われ寒水寺さんのある山の上の境界が堂々川の流れの中心に境が変わり、勝った中条側に白の源氏の旗色彼岸花の球根、負けた御領側に平家の旗色赤の球根を植えたそうです。

2番目に大きい鳶ヶ迫砂留は高さ10.7m・長さ39.3mで景観は堂々川NO.1です。昭和の時代この谷の上流は花崗岩の石切り場で川の堤防の崖石になっていました。

1732年鳶ヶ迫池として作られ池はすぐに決壊、1765年再度池を作るも又すぐに決壊したので砂留として整備し現在まで美を誇っています。平成6年頃からこの谷を公園にする計画があったらしく砂留前面に新しい砂留が6基作られ、奥には平成11年にコンクリートの砂留が造られています。この砂留がある堂々谷は上流に人家はなく自然がいっぱいです。珍しい植物の「タヌキ藻、ヒルムシロ、ガガブタ」が生えていましたが、数年前から何処かの業者が盗掘を始めあつという間に消えてしまいました。珍しい生き物は「アカハライモリ、ニホンアカガエル(産卵場)、最上流にはセトウチサンショウウオ」もいましたが、2年前から姿を見なくなりました。自然復活には福山大学殿と一緒にマップを作る活動を予定しましたがコロナ禍で前に進んでいません。

このように我々は自然を守る活動もしていますが苦戦しています。

完



6番砂留



鳶ヶ迫砂留

